

下記の表は、LifeKeeper for Linux v9で稼働して利用いただくことができる、認定済みのストレージの一覧表です。ハードウェアの最新構成にご利用ください。

【認定済みのストレージについて】

LifeKeeperの共有ストレージとして利用するストレージは、種類によって認定が必要なものも含まれています。

SCSI / FC / iSCSI / SAS など、LifeKeeperがiSCSI-2/3 Reservationを用いてIOフェンシングを行うことが前提となる、種別/モード同一のデータ参照する共有ストレージは認定されたものをご利用いただく必要があります。

またQuorum/Witness Server KRをご利用しSCSI-2/3によるReservationを行わないことが前提となっているストレージについても、同じく認定が必要です。表でのご確認をお願いいたします。

【認定が不要な構成】

以下の構成においては、ストレージ認定が不要です。
・NASストレージ(NAS Recoveryが必須です)
・DataKeeperによるDataReplicationを構成するディスク装置(内蔵、外付けを問いません)

【ご利用いただけるハードウェア】

・USB/IEEE1394などで接続する、コンシューマー向けストレージの利用はサポートされません。

Table with columns: ベンダー名, ストレージモデル名, バックタイプ, 接続構成, サポート可否, 必要なARK(+3), サポートするLKのバージョン(+4), 注意事項. Rows include Dell, Fujitsu, Hitachi, HPE, IBM, Lenovo, NEC, Pure Storage.

(*)1: EMCストレージの接続に関して
【iSCSI認定】は認定済みの構成としております。EMC社のストレージのサポート状況については以下のリンク先をご参照ください。
http://www.emc.com/intelligenceability

(*)2: マルチパスソフトウェアに関して
このドキュメントは、LifeKeeper for Linux v9を対象としています。以前のバージョンのLifeKeeperの認定情報は、リリースノートでご確認ください。
http://jdoccs.us.scs.com/

(*)3: 接続構成の説明
vSphere ESXサーバーで共有ディスクをRaw Device Mapping (RDM)で接続した構成 (+5)
Device Mapper Multipath Driverを使用した共有ディスクのマルチパス構成
ETERNUS Multipath Driverを使用した共有ディスクのマルチパス構成
IBM Redundant Disk Array Controllerを使用した共有ディスクのマルチパス構成
Storage StoragePathSaviorを使用した共有ディスクのマルチパス構成
IBM Redundant Disk Array Controller を使用した共有ディスクのシングルパス構成
特別マルチコントローラを用いたシングルパス構成

(*)4: サポートするLifeKeeperのバージョンに関して
訂正/改良に関する、vSphere vSphere 5.0以降のバージョンでは、vSphereのリリースノートをご確認ください。
http://www.vmware.com/go/v5updates

(*)5: vSphere vSphereの仮想ディスクの構成に関して
表のiSCSI接続に関する記載は物理構成とvSphere環境で共通です。その為、バックタイプ「iSCSI」の接続構成の項目に「vSphere」の記載は行われていません。